タイの都市におけるコミュニティ施策とカナカマカーン・チュムチョン
――バンコク近郊パークレット市を事例に――

○福島大学　　牧田実
宇都宮大学　　マリー　ケオマノータム

1　目的

タイの都市では，近年，自治体の範域を一律に小さな地理的区画に分け，それをチュムチョン（地域）と称し，そこに住民の代表機関であるカナカマカーン・チュムチョン（地域委員会）を設置する動きが進んでいる．この報告は，バンコク都に隣接するパークレット市を事例に，チュムチョンおよびカナカマカーン・チュムチョンの実態を現地調査によって明らかにすることにより，タイの都市におけるコミュニティ施策の成果と課題を，制度と主体の両面から考察することを目的とする．

2　方法

タイ国政府内務省およびパークレット市を対象として，行政資料の収集・分析と聴き取り調査を行うとともに，パークレット市内のチュムチョンを取りあげ，カナカマカーン・チュムチョンの委員を対象とする聴き取り調査を行う．

3　結果

パークレット市は，バンコク都に隣接する人口 18.8 万人の都市である. 1955 年, 5 つのタンボン（行政区）をあわせ，準自治体であるスカーピバーン（衛生区）として創設され，1992 年に地方自治体（テーサバーン）となった．1995 年，地域社会開発への住民の参加を促す内務省の方針を受け，タンボンをチュムチョンとあらためた．以後，人口増加とともにチュムチョンの細分化を進め，1997 年には 12 チュムチョン, 2000 年には 37 チュムチョン, 2015 年には 65 チュムチョンとなっている．市域はすべていずれかのチュムチョンの範域となっている．

チュムチョンは，その範域に居住するすべての住民を包含する地理的単位であり，そこには住民の代表機関として，カナカマカーン・チュムチョンが組織されている．この意味で，チュムチョンは官製の行政区的な性格とともに，住民自治組織としての性格をあわせもっている．なお，パークレット市は 1 チュムチョンに対して，年間 10 万 B（約 30 万円）までの地域開発予算を提供している．

パークレット市の「チュムチョンの運営に関する規約」によれば，カナカマカーン・チュムチョンは，10 名以内の委員によって構成される．会長は住民による選挙によって選出され（軍事政権下にある現在は一時的に選挙が禁じられ，推薦制となっている），その他のメンバーは会長が指名する．役職としては，会長，副会長，書記があり，そのほか総務（民主主義の尊重，情報伝達，陳情のとりまとめ），地域安全（防犯・防災，ボランティア，静穏の維持，麻薬問題），財務（収支と財産の管理，修繕管理），教育（青少年の実態把握，地域行事，文化・スポーツ），福祉（住民データの把握，職業開発），保健衛生（保健調査，公衆衛生），開発（地域計画，公共施設の保全と管理，行政への要請，インフラの管理）などの担当がおかれることになっている．

4　結論

タイの都市に，近年一律に導入されるようになったチュムチョンは，官製の行政区的な性格と住民自治組織としての性格をあわせもっている．1990 年代以降のタイの民主化・分権化の流れに位置づくコミュニティ施策であると同時に，地域社会開発における住民の自助と参加を促す仕組みでもあるといえよう．